

災害に備えて

合同炊き出し訓練

中泊町区分小泊赤十字奉仕団(秋元委員長)、下前地区自主防災会、小泊中学校1学年が、10月6日(木)小泊中学校体育館で合同の炊き出し訓練を行いました。

この日は日赤青森支部から講師を招き、非常災害食としてハイゼックスという米1合用の袋に米と水を入れ、大きな釜でごはんを炊きあげる作業を学びました。

生徒たちは、講師や奉仕団の指導のもと袋詰めをし最後はゴム止めを施す作業を体験し、できあがった袋を大きな釜に入れました。炊きあがるまでは、赤十字の歴史などを学びました。

ご飯が炊きあがると、小泊婦人部が作ったカレーと一緒に試食しました。おかわりする生徒も多く、美味しくできあがったようでした。訓練を体験した生徒たちは「ゴム止めする作業が大変だった。ここで学んだことを災害時に役立て、だれかの助けになれば」と感想を話しました。

試食後は、救急法の講習となり、専用の人形を使ったAEDの使用法や三角巾をつかった応急処置を学びました。担当した講師は「AEDはもうどこにでもあるものなので、しっかりと使用法を覚え、いざというときに使えるようになってほしい」と話していました。



ハイゼックスの説明を聞く



炊けたご飯でカレーライス

小泊の漁業を体験

中里小5年生がふるさと学習

中里小学校5年生が、9月26日(月)小泊地域でふるさと学習を行いました。はじめに小泊漁協施設でマグロが水揚げされる様子を見学したり、製氷庫の大型冷蔵庫でマイナス10度の世界を体験したりしました。

次に、水産観光課職員から小泊地域で水揚げされる魚の種類、漁法などを学びました。児童らは、真剣な表情で説明されたことをノートに書き込んでいました。最後に小泊神明宮前で磯焼け対策として有機微生物入りの泥団子の投入を体験しました。子どもたちは「小さいマグロだったけど思っていたよりも重かった。資源を大切に、またたくさん魚が獲れるようになったらいい」と話していました。



初めて見るマグロの水揚げ



マイナス10度で記念写真



みんなで楽しく磯焼け対策

